

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 (3) ～中学校～
				領域名	カリキュラム・マネジメント
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (3) 資質・能力を育むために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を高める実践研究 (効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究)				
学校名 (児童・生徒数)	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校 (314 人)				
所在地 (電話番号)	北海道函館市美原 3 丁目 48 番 6 号 (0138-46-2233)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/study/">https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/study/</a>				
研究のキーワード	組織的かつ継続的, 共通理解, 研究協議会, 多角的な評価				
研究結果のポイント	<p>○研究や試行段階で終わることなく、日常の教育活動の一部にしていくために、教務部と連携を行い、組織的かつ継続的にカリキュラム・マネジメントに取り組む土台を築くことができた。</p> <p>○質問紙調査やヒアリング調査等を踏まえた、全教職員での研究協議会の実施を行い、共通理解を形成することができた。</p> <p>○指導計画等の活用による各教科での評価、ヒアリング調査や質問紙調査、外部評価など多角的な評価を基にしたカリキュラム評価の工夫・改善を行うことができた。</p>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究

### (2) 研究主題設定の理由

#### 1) 研究の経緯と課題

- ・本校は、平成29年度から「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」を学校研究主題として設定し、3年間の実践研究に取り組んでいる。
- ・平成29年度は、『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン」という副題の下、まず、学校として育成を目指す資質・能力として「各教科等において育まれる資質・能力」、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」（「市民」とは、本校が「主体的・能動的に事柄に関わり、自ら社会へと働きかけ、参画する存在」として設定したものである。）を設定した。
- ・上記の3つの資質・能力を教科等横断的に育成するために、各教科等の指導計画等を共通の様式で作成した（「年間単元配列シート」：3年間のどの時期にどのような単元の学習を行っているかを明らかにしたもの、「資質・能力シート」：どの単元でどの資質・能力の育成を目指すのかを明らかにしたもの、「単元デザインシート」：各単元の指導計画。なお、これらをあわせて「指導計画等」とする。）
- ・令和元年度は平成30年度を取組を踏まえて、「カリキュラム・マネジメントを支える評価の工夫」という副題の下、カリキュラム・マネジメントの充実を目指して、編成したカリキュラムやその

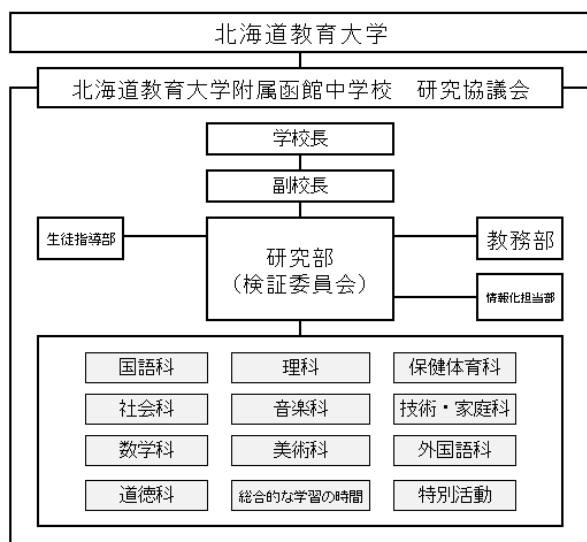
実施に対する適切な評価及び評価に基づいた適切な改善を行うための具体的な方策等について検討し、取り組んだ。

- ・カリキュラム・マネジメントの充実について、組織的かつ継続的に取り組むことを課題とした。

## 2) 研究の目的

- ・本研究は、中学校において、資質・能力の育成を実現するための効果的なカリキュラム・マネジメントの在り方に関する実践研究を行う。

## (3) 研究体制



本研究は、北海道教育大学の下、全教員で構成される研究協議会を中心に取り組むこととする。「各教科等において育まれる資質・能力」については主として各教科等の担当者が取りまとめを行う。

研究部は、本研究計画の立案及び推進の中心としての役割を果たすとともに、教務部や他の担当者と連携を図る。また、研究部と北海道教育大学の教員等によって構成される「検証委員会」を設置し、本研究の進捗状況を適宜把握しながら、検証を行う。

なお、昨年度に設定していた「情報活用部会」及び「市民性部会」については、研究部がその役割を担うこととした。

## (4) 2年間の主な取組

平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度の実践に基づく、平成30年指導計画等の作成（5月）</li> <li>・指導計画等に基づいた実践。（5月～1月）</li> <li>・教育研究大会における本研究に関する提案及び評価・改善に関する協議。（6月15日）</li> <li>・1学期の実践を踏まえた指導計画等の改善案の作成。（8月）</li> <li>・検証委員会による教科担当者を対象にしたヒアリング調査の実施。（11月）</li> <li>・生徒を対象にした本研究に関する意識調査の実施。（12月19日）</li> </ul>
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的かつ継続的に取り組むための体制づくりや指導計画等の改善。（5月）</li> <li>・平成30年度指導計画等に基づいて展開される実践に対するカリキュラム評価。（5月～1月）</li> <li>・教育研究大会における本研究に関する提案及び評価・改善に関する協議。（6月14日）</li> <li>・検証委員会による教科担当者や学年主任を対象にしたヒアリング調査の実施。（10月、1月）</li> <li>・全教職員での研究協議会の実施。（9月、11月、2月）</li> <li>・生徒を対象にした本研究に関する意識調査の実施。（12月18日）</li> </ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

平成30年度の本研究に関する研究成果及び課題を踏まえて、組織的かつ継続的にカリキュラム・マネジメントに取り組むための体制を構築するとともに、指導計画に基づいて展開される実践に対する評価や改善の過程に焦点を当てた研究に取り組む。

### ①カリキュラム・デザイン

1) 平成 30 年度に作成した指導計画等の再整理と、総合的な学習の時間を中核とした教育課程の編成

2) カリキュラムの評価に活用することができる単元の評価規準の工夫

### ②PDCAサイクル

3) 組織的かつ継続的に取り組むための体制の構築

4) 各教科担当者、学年主任を対象としたヒアリング調査の実施

5) ヒアリング調査の結果等を踏まえた、全教職員での研究協議会の実施

6) 共通理解に向けた教職員に対する意識調査の実施

### ③内外リソースの活用

7) 総合的な学習の時間における様々な分野の専門家による講演会の実施

## (2) 具体的な研究活動

### ①カリキュラム・デザイン

1) 平成 30 年度に作成した指導計画等の再整理と、総合的な学習の時間を中核とした教育課程の編成

本校が目指す3つの資質・能力である「各教科等の資質・能力」、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」について、これまでは並列の関係として捉えてきたが、これらの位置付けを整理し直し、単元デザインシートの改善を行った。特に「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」については、「この単元とつながりのある『情報活用能力』と『市民として求められる資質・能力』として、当該単元で育成することができる資質・能力を示すこととした。さらに、単元デザインシートの改善に伴って資質・能力シートを廃止した。また、総合的な学習の時間の全体計画を見直すとともに、それぞれの単元デザインシートに「この単元と総合的な学習の時間とのつながり」を必要に応じて示した。

2) カリキュラムの評価に活用することができる単元の評価規準の工夫

単元デザインシートにおいて、「この単元で育成を目指す資質・能力の実現状況を見とるための評価規準」を示すこととした。とくに、評価規準設定に関する取組として以下の点を全体に示した。

- ・評価規準は、当該単元で育成することを目指す各教科等の資質・能力について設定する。
- ・評価規準を基に、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された生徒の具体的な状況を想定する。

### ②PDCAサイクル

3) 組織的かつ継続的に取り組むための体制の構築

平成 30 年度から研究部が中心となって推進してきた取組について、研究や試行段階で終わることなく、日常の教育活動の一部にしていくために、教務部と連携して、カリキュラムの編成を図ることとした。具体的には、評価規準の工夫に関する内容は引き続き研究部が中心になって取り組み、年間単元配列シートと単元デザインシートを活用した教育課程の編成及び評価・改善については、教務部が中心になって取り組むこととした。

4) 各教科担当者、学年主任を対象としたヒアリング調査の実施

カリキュラムの評価・改善のための取組の状況を把握するために、検証委員会によるヒア

リング調査を実施した。検証委員会は、北海道教育大学の教育課程の研究者、本校副校長、本校研究主任、本校教務主任の4名で構成した。主な調査内容は、以下の点である。

- ・平成30年度に作成した単元デザインシートに対して、どのような視点でカリキュラム評価を行ったのか。(そのように考える根拠となるものを提示)
- ・今年度新たに作成した単元デザインシートで明示した評価規準は適切であったか。

また、今年度は教科に特化した取組だけでなく、全ての教科活動で3つの資質・能力の育成を実現するために、学年主任を対象に、特別な教科道徳や総合的な学習の時間、特別活動に関してもヒアリング調査を実施した。

#### 5) ヒアリング調査の結果等を踏まえた、全教職員での研究協議会の実施

全教職員で協議する機会を設定することを通じて、本校が育成を目指す生徒の姿や資質・能力に関する内容や研究に対しての共通理解を図った。また、本校が育成を目指す3つの資質・能力を関連させた各教科等の指導における評価方法の交流を図った。

#### 6) 教職員に対する意識調査の実施

研究に対する教職員全体の意識を把握するために、質問紙による意識調査を複数回実施した。

#### ③内外のリソースの活用

#### 7) 総合的な学習の時間における様々な分野の専門家による講演会の実施

総合的な学習の時間における「課題の設定」と「情報の収集」のために、大学教員や地域で活躍する方を講師として招へいし、様々な分野の専門家による講演会を実施した。

### 3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 各教科担当者によるカリキュラム評価のための評価材料の蓄積、教務部による単元デザインシートを活用した教育過程の編成及び評価・改善、研究部による評価規準の工夫に関する達成状況の把握や意識調査の実施、検証委員会によるヒアリング調査の実施など、各部署の役割を明確にしたことにより、組織的かつ継続的にカリキュラム・マネジメントに取り組む土台を築くことができた。
- 全教職員による研究協議会の実施により、意識調査やヒアリング調査の内容の交流を図ることで、共通理解を形成することができた。
- 指導計画等の活用による各教科での評価、各教科担当者や学年主任に対するヒアリング調査、生徒対象の質問紙調査、教職員対象の質問紙調査、北海道教育大学等の教員による外部評価等、多角的な評価を基にしたカリキュラム評価の工夫・改善を行うことができた。
- 研究協議会等での共通理解を形成することができたが、カリキュラム・マネジメントについての全教職員の共通理解については、引き続き努力していく必要がある。
- 共通様式の指導計画等を整備することで、各教科での資質・能力育成の時期や内容について整理することはできたが、教科横断的な視点での学習指導の充実に向けた更なる取組が必要である。

### 4 今後の取組

新学習指導要領全面実施に向け、2年間の研究結果を踏まえて、教科横断的な視点での学習指導を行うための指導計画等を工夫する必要がある。